

利根中央病院 病院 だより

第38号
2015年新年号

企画発行 利根中央病院地域連携室
〒378-0053 群馬県沼田市東原新町1855-1
電話 0278-22-4325(直通) FAX 0278-22-4393
URL <http://www.tonehoken.or.jp/>

理念と方針

- 理念** 安心と安全 参加と協同
患者中心のチーム医療
- 方針** ☆救急体制の充実、いつも安全確認
絶やさぬ笑顔
☆診療情報提供と共に作る診療計画
☆広げよう人と人との結びつき
すすめよう健康づくりまちづくり



1月の花

クリスマスローズの花言葉は
“いたわり”
凍てつく寒さに耐え
春を待つように咲く花

編集後記

新病院建設も順調に進み、8月末には引っ越しを控え、あわただしい毎日ですが期待もふくらみます。
なお一層皆様との連携を深め、地域の方々に安心・安全な医療を提供できるよう職員一同がんばります。



夢をかたちに

シリーズ「新病院建設」No.7 進捗状況



新病院建設事務局長 布施 正子

理事会の元に設置された「建設委員会」立ち会いのもと、2014年10月には「外装の色決め」、11月は「外観サイン」について確認が行われました。12月には設計事務所から内装プランが提示され、現在検討が進んでいます。また昨年末に足場も解体され、新病院の外観が明らかとなってきました。

いよいよ今年は「新病院開設」の年となります。医療機器や什器備品の確定、引越しに向けた様々な条件の整備等課題はまだ山積ですが、9月1日新病院オープンに向け論議を進めていきたいと思えます。



今号の話題

- 新年あいさつ 院長 糸賀 俊一
- 法人内 施設紹介 Part1 とね診療所
紹介と展望 とね診療所長 都築 靖
- 大規模災害におけるDMAT関東ブロック訓練開催
利根中央病院DMAT 関原正夫
- 「沼田利根医師会利根中央病院症例検討会」開催
利根中央病院地域連携室
- 第2回「医療メディエーター養成講座」開催
医療安全管理者 千木良美佐子
- NSTの紹介と活動 利根中央病院 NST



NSTの紹介と活動

NST (Nutrition Support Team) とは
栄養療法を各専門職種がチームで栄養支援を行う事です



NST専従看護師 戸丸悟志

■ 仕事内容 ■

利根中央病院の入院患者様で調べてみると3割が重度の栄養不良、4割が栄養不良予備軍、残りの3割が栄養不良なしというデータがあります。この栄養不良から予備軍の患者様に関わり栄養状態を改善させて退院を目指す事を目標としています。

毎日各科での回診、カンファレンスに参加し情報収集をして、個々に合った食事、補助食品、経腸栄養剤の注入量・速度、輸液などの調整をしています。食事量が少ない患者様や低栄養状態の患者様に対し、嗜好を聞き形態など変えることで食欲が出ることもあります。入院生活での楽しみの1つである食事だからこそしっかりと考える必要があります。

他にNSTでは胃瘻の造設から交換まで携わっています。造設の適応をしっかりと見定めれば経鼻栄養や中心静脈栄養より感染や合併症など少なくてすみます。また地域連携パスも使用し転院後も同様の管理ができるように努めています。パスの中にはトラブル時の対応なども記載してありますので、お気軽に相談してください。

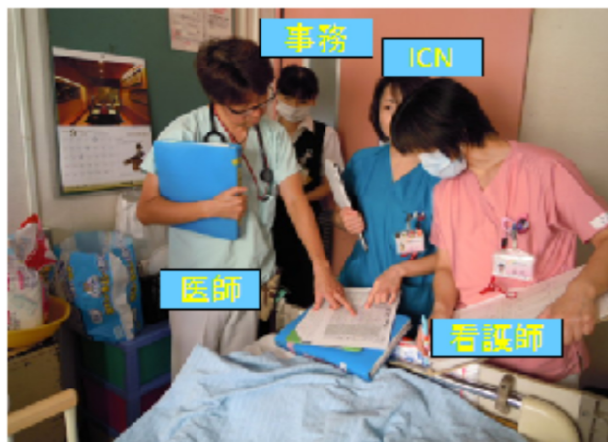
■ 勉強会 ■

毎月第2金曜日の18時から19時の1時間で定例学習会を行っています。毎年4～6月は新入職員向けの栄養アセスメント、輸液、口腔ケアなどを行い、夏には脱水や食中毒の話など季節に合った勉強も行っています。どなたでも参加できますので興味のある内容の時には参加してください。

■ 地域連携 ■

2012年に利根沼田胃ろう地域連携パスを作成し、新規胃瘻造設患者様より使用を開始しています。2014年からは2012年以前に造設した患者様のパスも作成しました。利根沼田圏内の胃瘻患者様の情報を統一し、胃瘻の物品・管理の標準化を目指しています。

連携パス稼働後の2012年4月から2014年3月までの胃瘻造設患者の2年生存率は78%であり他の地域は50%前後ですのでかなり高い生存率です。利根沼田の胃ろう連携がスムーズに行われ患者様、ご家族様が安心して在宅生活が送れますよう支援したいと思います。



感謝



利根中央病院
院長 糸賀 俊一

2013年11月に新病院建設が始まり早1年、順調に工事が進み、本年7月に竣工 9月1日に開院となります。現在新病院の機能整備に向けた検討を開始し開院後に病院機能を充分発揮できるよう準備を進めています。ここまで順調に病院建設計画が進められましたのも、組合員をはじめとする多くの地域の皆様の協力の賜物と感謝しています。

2014年度からはDPCを導入し急性期医療の質の改善を目指し、その成果が現われ始めました。また昨年4月より2名の初期研修医が赴任し現在研修中です。

2015年度は総合診療科では、新たに2名の総合診療医と2名の後期研修医が採用予定されており、5名体制の総合診療科になる予定です。私たちにとっては、新病院建設に向けてジャンプする年になります。これからも安心して暮らせるまちづくりに貢献していきたいと考えておりますので、よりいっそう地域の皆様と共に、地域包括ケアの時代に連携・協力していきたいと思っております。今年も1年間 よろしくお願いたします。



建設中の利根中央病院全景



MRI室



健診センター待合

法人内 施設案内シリーズ

Part 1 とね診療所

現状と展望



とね診療所長 都築 靖

歴史

とね診療所は、利根中央病院を運営する利根保健生協の一事業体です。1954年（昭和29年）開設の利根中央診療所に始まりますが、利根中央診療所が倉内町から原新町の利根中央病院に発展した為、閉鎖した経緯があります。2000年（平成12年）老健とねの開設と同時に、精神科デイケアに併設する診療所として、老健の1階に開設したものです。当初、山路施設長を中心とする定年後のベテラン医師の協力で開設、一般外来は4～5名でしたが、2008年都築、2013年長坂医師の着任と共に診療所の来院患者が増加し、一日平均20名を超えるようになりました。

2015年（平成27年）には経験豊かな総合診療医の1名が着任します。病院の移転に伴い、高齢患者が通院しやすく、設備も拡充した診療所の移転・新築も計画しています。

現状

一般診療…月～金、午前の外来一診体制（土曜日休診）

訪問診療…水（午後、月4回）、土（午前、月1回）

職員…医師2（都築、長坂）、看護師1.5（非常勤）

薬剤師1（非常勤）、事務2

	月	火	水	木	金	土	日
午前 外来	都築	長坂	都築	長坂	1・3・5 長坂 2・4 都築	休診	休診
訪問 診療			第1～4 午後 都築		第1・3 午後 長坂	第3 午前 原田	

役割

①高齢者にやさしい診療所

* 遠くまで通院できない高齢者に対しやさしく説明、対応する診療を旨とする。

* 医療福祉生協連の「高齢者にやさしい診療所」認定の取得をめざす。

第2回

「医療メディエーター養成講座」開催



医療安全管理者 千木良美佐子



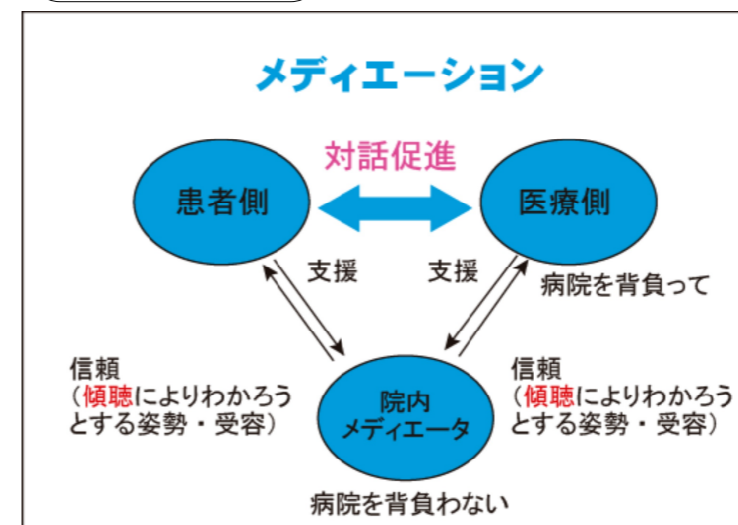
昨年に続いて、当院2回目となる医療対話推進者（医療メディエーター）養成講座が群馬大学医療安全管理部長の永井弥生先生と松本市立病院副看護部長でメディエーターの上条福子さんを講師に迎え2014年11月15日（土）16日（日）の2日間に開催されました。診療技術部長をはじめ初期研修医を含む3名の医師、看護師15名、事務6名とコメディ4名、他院看護師2名の合計30名が受講されました。

医療対話推進者（以下、メディエーター）は医療関係者と患者やその家族との間で意見の食い違いなどが起こった場合、仲介役を担う役割を果たす人で、相互理解を深められるよう支援（橋渡し役）します。

研修は講義だけでなく、患者役・医療者役・メディエーター役のロールプレイを行いました。それぞれの役割を演じることで多くの気づきを得ることができ、メディエーターの大切さも実感することができたようです。「患者さんの心の中にある思いを拓くように働きかけることが大切であると理解した。」「病棟内でも医師・患者間の意識のずれやトラブルなどが生じることがあり、活用できそうな技術を学べて良かった。」「話を聴く態度を学んだ」という意見が多く聞かれました。

院内でも職場のコミュニケーションや患者様対応に活用できるスキルです。今後も多くの職員に学んでほしいと思います。

中立的立場



沼田利根医師会

「利根中央病院症例検討会」開催

平成26年12月1日19:00より当院講堂にて「沼田利根医師会利根中央病院症例検討会」を開催致しました。

今回は、皮膚科：遠藤医師、退院調整：鈴木看護師、泌尿器科：富田医師、腎臓内科：宮医師より発表が行なわれました。発表された症例は多分野に亘り、バラエティーに富んだ症例発表会となりました。また、症例発表後には多くの質問や意見が寄せられ、活発な討論が行われていました。

当日は沼田利根医師会の先生方4名、当院医師17名、当院コメディカル33名の計54名のご参加を頂きました。ご出席頂きました先生方には、この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。

今後も地域の“顔の見える連携”の場として、更に発展させ継続させていきたいと考えております。次回の開催は平成27年6月です。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

また、ご提供頂ける症例がありましたら利根中央病院地域連携室までご連絡をお願い致します。

本会で発表された症例の演題と発表者は以下のとおりです

- ① 皮膚科部長：遠藤 雪恵
『皮膚生検により確定診断に至った
diffuse large B cell lymphomaの1例』
- ② 退院調整看護師：鈴木 真紀子
『終末期がん患者の在宅移行支援を経験して』
- ③ 腎臓内科医長：宮 政明
『透析導入直後にHITを発症し
肺動脈血栓塞栓症と深部静脈血栓症を合併した症例』
- ④ 泌尿器科医長：富田 健介
『外傷性尿道狭窄に対する尿道形成術の1例』



- ②在宅や高齢者施設を支える診療所
*老健（通所・入所）や訪問看護、訪問リハビリ、ヘルパーステーション、居宅事業所との連携
*病院と連携し癌末期や老衰等の在宅死への対応
*他施設への訪問診療（現在5施設と提携）と医療管理（サ高住、特養、グループホーム等）

③近隣地域住民の一般診療

④産業医活動、労災保険指定医療機関、被爆者一般診療医療機関

方向と展望

- ① 医師体制の強化による診療拡大
*月～土の毎日診療
*午前：1～2診、午後急患対応
夜間：医師の交代による訪問看護との連携
*内科・外科・総合診療科の標榜
- ②在宅療養支援診療所として在宅への訪問診療、往診への対応、高齢者施設の医療管理
- ③検査施設・機器の設備
*病院跡地への移転も含め、検査・機器の拡充を図る（エコー、内視鏡、血液検査等・・・）



大規模災害訓練実施

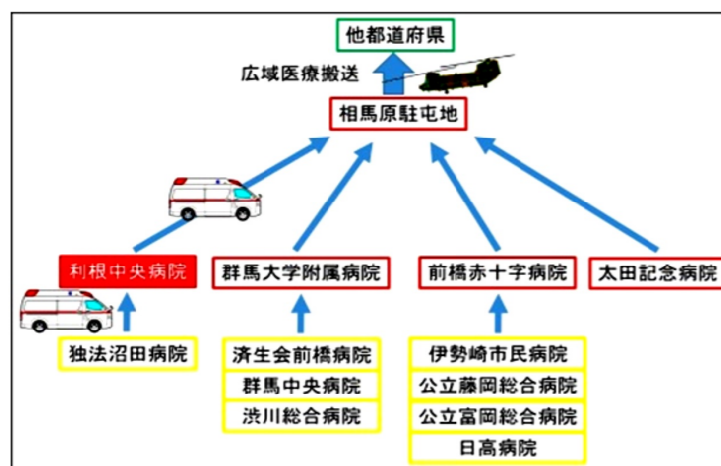
関東ブロック訓練 群馬開催を当院で実施



DMAT隊医師 関原正夫

利根中央病院では多数傷病者受入れ訓練を毎年行っており、訓練も第8回を数え、11月29日に傷病者数約60名・訓練参加総数180名を超える訓練を行いました。また日本DMATでは、関東1都6県が属する関東ブロックの訓練を毎年持ち回りで行っています。今年は群馬県での開催となった関係から、当院の訓練もDMAT関東ブロック訓練と平行して行われました。

関東ブロック訓練として当院が北毛地区の活動拠点本部となり、独立行政法人沼田病院を管下とした訓練が計画されました。関東各県から9隊のDMATチームが当院に参集し、その中で3隊は沼田病院へ派遣され、残りの隊は当院職員と共同して診療を行うことになります。また、災害時には重症者の移送が必要となってくるため、沼田病院から重症者が当院に移送され、更に当院からも自衛隊相馬原駐屯地に移送し、自衛隊の航空機を利用して県外へ搬送する訓練も含まれています。



11月29日午前8時過ぎに災害の第一報により災害対策本部構成員が招集されました。続いて全館放送により職員を招集し、役割が記載されたアクションカードが職員に配布され、20分以内に各部署の人員配置が完了しました。訓練参加者は、カードを配布されるまで担当部署は解りません。



傷メイクを施された傷病者が次々に病院玄関前に搬入されてきます。災害に特化した教育を受けた看護師が事務系職員と共に一次トリアージを行います。その後重症度別に院内へ搬入され、再度、看護師による二次トリアージが実施されました。この様に、看護師に対して災害に特化した教育プログラムを導入している事が当院の特徴であり、群馬県内の複数の災害拠点病院に対して同様のプログラム導入に協力しています。



当院に参集したDMATチームがDMAT活動拠点本部を運営し、重症者ゾーンに配属されたDMAT隊と当院職員と共に診療を行いました。沼田病院から重症傷病者6名の受入を行い、当院からも2名の傷病者を相馬原駐屯地に搬送する事ができました。



当院で活動いただいたDMATチームの方々からも、災害に特化した看護師プログラムに高い評価をいただきました。今後も、質の向上を追求していきたいと考えています。